

B—20 衣料害虫に関する研究

—イガ成虫の体の大きさと産卵数および 寿命との関係—

奈良女大家政 辻井 康子

1. イガの幼虫を飼育する場合、温湿度などの条件が異なるとその成長に差異を生じることが認められている。羊毛防虫剤の防虫効果判定のために、イガ幼虫を用いて生物試験を行なうためには、常に生理的に均一な幼虫を用いなくては其の再現性は期しがたい。大量に均一な幼虫を得るための飼育条件を見出すため、今回は異なった温度条件下で飼育して、羽化した成虫の体の大きさと産卵数、寿命との関係について実験的に考察を試みた。

2. 実験に用いたのは筆者が飼育し続けているイガで、産下後8時間以内の卵、300コを内径11cm、深さ7cmのガラスシャーレの中へ入れ、かつおぶし粉末に10%乾燥粉末酵母を加えたものを飼料とした。20°C、30°Cの恒温室で3組ずつ飼育し羽化した成虫について、体重、頭幅、産卵数、寿命の測定を行なった。

3. その結果20°Cでは94日から羽化しはじめ30°Cでは41日目から羽化しはじめた。成虫の体重を雌についてみると、20°C飼育では0.7~1.0mg、30°Cでは0.5~0.6mgで発育日数の長い低温で成長したものほど大型個体が得られた。産卵数は大型個体の方が多く、体重と産卵数との間には直線に近い関係がみられ、体重が約0.25mgのとき産卵数は0になる。

成虫の寿命は20°C、30°C飼育とも大差は認められなかった。